

機械器具 12 理学診療用器具
管理医療機器 電気パッド加温装置コントロールユニット 36955000
(機械器具 12 理学診療用器具 管理医療機器 電気パッド加温装置 11989000)

ホットドッグ患者加温システム

(ホットドッグ用加温ブランケット①)

【警告】

＜使用方法＞

可燃性の麻酔薬がある場所や、高圧室や酸素テントなど、高酸素濃度の環境ではホットドッグ患者加温システムを使用しないこと〔爆発して、けがをするおそれがある〕。

【禁忌・禁止】

＜適用対象（患者）＞

経皮的治療を受けている患者さんにはホットドッグ患者加温システムを使用しないこと〔薬が過剰に行き渡る危険性がある〕。

＜使用方法＞

大動脈クランプ中の末梢部分、または血管収縮剤による深刻な長期的血管収縮の可能性がある場合など局所虚血部位や非灌流部位を温めないこと〔熱傷のおそれがある〕。

【形状・構造及び原理等】

1. 形状・構造 代表的写真



ハーフボディ
【縦 99cm×横 70cm】



フルボディ
【縦 128cm×横 70cm】



マルチポジション
【縦 50cm×横 90cm×2】



トルソー
【縦 57cm×横 97cm】

2. 原材料

上部・下部シェル（表面）：ポリ塩化ビニル又はポリウレタン

3. 原理

導電性高分子が被覆された布の電気抵抗により熱を発生させる。

4. 動作環境

温度範囲：15℃～25℃
湿度範囲：20%～80%

【使用目的又は効果】

本品は低体温を防ぐため及び体温が低下した患者を加温する為に用いる。

【使用方法等】

1. 使用方法

- ホットドッグ用加温ブランケットの表面に損傷（傷、穴、電気の接続不良など）がないかどうか点検する。
- 黄色いホットドッグ用ケーブル（ブランケット）のオス側をブランケットコネクタのメス側に挿入する（図 1）。

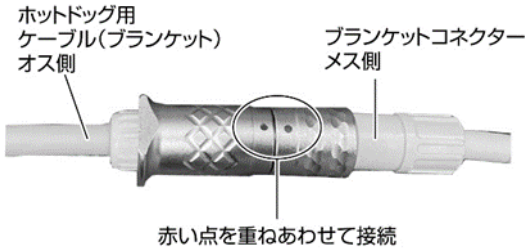


図 1 ケーブルの接続

※ コネクタを無理にコンセントに差し込まないこと。両方のコネクタの赤い点を一直線に合わせ、ゆっくりとコネクタを押して繋ぐ。コネクタが噛みあうと、カチッと音がる。

- 黄色いホットドッグ用ケーブル（ブランケット）のオス側をホットドッグ用コントローラーの該当するポートに差し込む。

ホットドッグ用コントローラーの品番	ポート
WC52 (KC-T1WC52)	A または B
WC77 (KC-T1WC77)	A、B、C、D

- ホットドッグ用コントローラーの電源を入れ、温度を選び、加温を始める。ホットドッグ用加温ブランケットが常温（23±2℃）から設定した温度になるまで 10 分未満である。設定した温度に達するとホットドッグ用コントローラーのパネル又はタッチスクリーンの温度設定表示が点滅から点灯に変わる。

※ 選択した温度に 10 分以内に達しなかった場合、警報が鳴る。ホットドッグ用コントローラーの取扱説明書を参照すること。

※ ホットドッグ用加温ブランケット接続時にホットドッグ用コントローラーの警報が鳴った場合、警報が解除されるまでホットドッグ用加温ブランケットの使用を中止すること。

- パネル又はタッチスクリーンの温度設定表示が点灯に変わったら、患者接触面全体を手で触り、温度が低い又は高い箇所がないかを確認すること。

取扱説明書を必ずご参照ください

- 6) 患者保護具（使い捨てシーツや薄いベッドシーツなど）を患者さんの上にかける。
- 7) ホットドッグ用加温ブランケットを患者保護具の上に乗せ、ホットドッグ用加温ブランケットの加温面（黒い面）が患者さんに向くようにする。
- ※ 加温エリアの「記号の定義」はホットドッグ用加温ブランケットの取扱説明書を参照すること。
- ※ ホットドッグ用加温ブランケットを患者さんの下に置かないこと。また、使用中にはホットドッグ用加温ブランケットの加温面（黒い面）を丸めたり折りたたんだりしないこと。
- 8) ホットドッグ用加温ブランケットの温度センサー（白い箇所）で示されているが患者保護具を介して患者さんに接するように（すき間が生じないように）設置されていることを確認する。
- 9) ホットドッグ用加温ブランケットの取扱説明書を参照し、ホットドッグ用加温ブランケットの位置を決め、固定する。
- 10) 患者さんの体温を定期的にモニタリングしながら、体温が適切な温度になるように、温度設定を調整する。また、定期的に患者さんの皮膚状態を観察し、異常がないことを確認する。
- 11) ホットドッグ用加温ブランケットを使い終わった時には、患者保護具を取り、ホットドッグ用加温ブランケットを必要に応じて清掃する。

2. 使用方法等に関連する使用上の注意

- 1) 使用する前に傷、穴、電気の接続が悪いところなどの、破損や摩耗の兆候がないか点検すること。破損や顕著な摩耗がある場合は、使用を中止し、販売店に問い合わせること〔電装品のショートや漏電による感電・火災や製品の変形による動作の異常などによって、けがをするおそれがある〕。
- 2) パネル又はタッチスクリーンの温度設定表示が点灯に変わったら、患者接触面全体を手で触り、温度が低い又は高い箇所がないかを確認すること。温度が不均一であったり、過度に熱くなっているところがある場合は使用を中止すること〔熱傷などのけがをするおそれがある〕。
- 3) ホットドッグ用加温ブランケットを患者さんの下に敷いて使用しないこと〔ホットドッグ用加温ブランケットが破損・変形して、けがをするおそれがある〕。
- 4) 過熱表示や警報音が再起動後も鳴り続ける場合、ホットドッグ患者加温システムを継続使用しないこと〔異常動作して、けがをするおそれがある〕。
- 5) 患者さんを手術台に固定する際に使用している抑制帯などの下にホットドッグ用加温ブランケットを入れないこと〔破損・変形して、けがをするおそれがある〕。

【使用上の注意】

重要な基本的注意

- 1) ホットドッグ患者加温システムを使用している間は、病院内の手順に従って常に患者さんのバイタルサインを監視すること〔病状が悪化するおそれがある。不安定なバイタルサインになった場合は、臨床医に連絡すること〕。
- 2) 複数の加温方法を行う際は、患者さんの容体に注意すること〔症状が悪化するおそれがある〕。
- 3) 外科手術用プレップ液の使用法に従うように留意し、患者さんの容体に注意すること〔外科手術用プレップ液の貯留による皮膚への刺激のリスクは、温めることにより増加する可能性がある〕。
- 4) ホットドッグ用加温ブランケットは加温面（黒い面）を患者さん側にし、温度センサー（白い箇所）で示されているが患者保護具を介して患者さんに接するように（す

き間が生じないように）設置して使用すること〔ホットドッグ用コントローラーによる適切な温度設定の調節ができず、熱傷のおそれがある〕。

- 5) ホットドッグ用加温ブランケットは使用中に加温面（黒い面）を合わせるように折りたたまないこと〔重なった部分に局所的な熱が滞留し、けがをするおそれがある〕。
- 6) 常に、患者保護具（使い捨てシーツや薄いベッドシーツなど）を患者さんとホットドッグ用加温ブランケットの間に使用すること〔熱傷のおそれがある〕。
- 7) X線撮影時にホットドッグ用加温ブランケットを使用しないこと。ホットドッグ用加温マットレスのみ使用可能である〔画像に映り込む可能性がある〕。
- 8) 患者さんの輸液ラインを、ホットドッグ用加温ブランケットとホットドッグ用加温マットレスとの間に入れないこと〔熱傷のおそれがある〕。

【保管方法及び有効期間等】

1. 保管方法

- 1) 乾燥した場所で、傷つけられるおそれのないところに保管する。
- 2) ホットドッグ用加温ブランケットは平ら（望ましい）か、丸めて保管するか、ブランケットの端に沿って設けられている穴を使って、吊りさげ金具に掛けて保管することも可能である。
- 3) 保管環境
 - ・温度範囲：-20℃～60℃
 - ・湿度範囲：20%～80%（結露ないこと）

2. 耐用期間

ホットドッグ用加温ブランケット：2年6ヶ月

〔自己認証（当社データ）による〕

- ※ 耐用期間を過ぎたホットドッグ用加温ブランケットは使用しないこと。

【保守・点検に係る事項】

1. 洗浄・消毒

1) 全般的注意

- ① 洗濯や滅菌はホットドッグ用加温ブランケットを損傷させるおそれがあるので行わないこと。
- ② ホットドッグ用加温ブランケットを液体に浸さないこと。
- ③ 強力な消毒液（例：グルタルアルデヒド、過酢酸）または過酸化水素が含まれた液体は使用しないこと。
- ④ コネクター部に洗浄液を吹きかけないこと。
- ⑤ ペルオキシド系の消毒液は内部ヒーターに悪影響を与えるため、使用しないこと。オートクレーブ、滅菌器、自動洗浄・消毒器などの高温の場所には入れないこと。
- ⑥ ホットドッグ用加温ブランケットの取扱説明書で推奨されていない清掃や消毒液については販売店に問い合わせのこと。

2) 推奨される消毒液

アルコールはすぐに作用し、ホットドッグ用加温ブランケットに吹きつけて拭くことができるため、一般にはアルコールによる消毒が最も簡単である。他にホットドッグ患者加温システムの部品表面に適合する消毒液としては、次亜塩素酸ナトリウム（薄めた漂白剤）や、フェノール性殺菌第4級アンモニウム消毒液がある。ヨウ素を含む消毒液は、表面の変色を引き起こす場合があるため、日常的な清掃には推奨されない。また、過酸化水素を含む消毒液は気化すると導電繊維を劣化させるため推奨しない。

3) 頻度

患者さんに使用するたび及び汚れた場合。

4) 方法

- ① 目に見える体液や汚れがある場合は、消毒液を使用する前にそれらを除去する。洗剤と柔らかいブラシやスポンジでこすり、汚れを取り除く。その後、湿らせた布でホットドッグ用加温ブランケットの表面を拭く。
なお、ホットドッグ用加温ブランケットは、液体に浸さないこと。
 - ② 低水準または中水準の消毒液をホットドッグ用加温ブランケット全体に吹きかけるか塗布する。十分な消毒効果を得るために、消毒液メーカーの取扱説明書に従うこと。
 - ③ 清掃後、ホットドッグ用加温ブランケットが乾いていることを確認してから再度使用する。
- ※ コネクター部に洗浄液が入らないようにすること。
※ 詳細についてはホットドッグ用加温ブランケットの取扱説明書を参照すること。

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売業者：**村中医療器 株式会社**
TEL：0725-53-5546



製造業者：オーガステイン テンブラチャー マネージメント社
Augustine Temperature Management アメリカ合衆国